

ダイアリー 25.08.07

やあ、みんな。こんなに長い間ダイアリーの更新を怠けてて、本当に本当にごめん。この間ウェブサイトを見たら、最後にダイアリーを書いたのはなんと1月だった。これって本当に良くないよね。みんな、ごめんね。

さて、2007年だけど、今のところ一風変わった年なんだ。ちょうど仕事を離れて、欲しくてたまらなかった休暇を取ったところ。バッテリーを充電して、ある種の正常な状態に戻るチャンスだから、というか、正常な状態と願いたいけど、詳しい話はこの後で。

今年は僕にとってとても忙しい、けれど変な年なんだ。おかしいよね。フリーランスのパフォーマーでいると、ある年は仕事が山積みで、無我夢中でひたすらやりがいを感じていたり、ある年は仕事は多くなくても、その仕事が一番のものだったりすることがある。反面、今年のように、やることが多いせいで、ちょっとおかしいと感じて、あまり... いや、本当のところ、最後にやった仕事のせいで、僕はちょっと滅入っているんだと思う。じゃあ、年の初めに戻ってみようか。

今年は先ずワークショップから始まった。僕がプリマスでやっていた「イマジン・ディス」というミュージカルのワークショップ。大仕事だったけれど、約3週間ロンドンでワークショップをやったんだ。僕にとっては、いろいろな理由で特に充実した内容ではなかったけれど、あつという間に進んで、何人かの素晴らしい人たちに出会えた。スタート前に少し休みが取れるかなと思っていただけ、実際は「イマジン・ディス」の本公演のために、ほとんどすぐにオーディションに突入した。だから去年の11月～12月頃から7月21日の終了まで、ほぼずっと「イマジン・ディス」にかなりの時間を取られていたんだ。

とにかく、ワークショップを終えてすぐにオーディションをした。休み無しでね。そんな時、僕のエージェントからの電話で、ハナ・チシックというディレクターと、ニール・レイドロウというプロデューサーに会わないかと言われてびっくりさ。二人はレスタースクエアのザ・ベニューで「サイド・バイ・サイド・バイ・ソンドハイム」という作品を上演しようとしていたんだ。公演まであと4～5週間しかなくて、ぎりぎり直前の連絡だった。キャストを集めるのには約2週間しかない。でも彼らに会って、とても仲良くなったんだ。ハナ・チシックはとても優れたディレクターで、人柄も素晴らしく、実際僕に振付家として最も豊かな経験の一つをさせてくれた。仕事で彼らとこんなに素晴らしい関係が持てたおかげで、「サイド・バイ・サイド」をやっていた時は、僕が振付をした中で一番いい思い出の一つだよ。だからハナ、どうもありがとう。言ったようにオープニングまで約5週間で、キャストを探すのには2週間。けれど素晴らしいキャストが見つかった。出演者は3人の歌手だけ。ジョージ・ウォーカー、アラスデア・ハーベイ、アビー・オズモン。みんな素晴らしくて、気分よく一緒に仕事できる面々だった。みんな本当に楽しかったよ。ショー全体も素晴らしいし、前に言ったように素晴らしい経験だった。でも悲しいことにすぐに終わってしまったんだ。たぶんロンドンで8

～10 週間かな、かなり上手くいった。僕も見に行くたびにとても興奮したよ。これは毎晩見ても、見るたびに何か違いを感じるたぐいのショーだったんだ。パフォーマンスも最高で、ハナと僕はこのショーをとて誇りに思ってる。これでもしかしたら、何か起きるかもね。またハナと一緒に仕事がしたいよ。

「イマジン・ディス」に戻ろう。オーディションに何週間も何週間も何週間もかかった後、僕らはずいにリハーサルに入った。変わったショーなんだ、「イマジン・ディス」は。非常に微妙な題材で。ホロコーストに関するものは何でも扱いにくけれど、脚本のグレン(ベレンベイム)はそれをとても上手に扱ったと思う。僕にとっては難しいプロジェクトだったけれど。結局のところ、あまり楽しめなかったんだ。とても大変な思いをしたし、もしこのショーがどこか他の場所で続いたら、僕はもうかかわらないと決めたと以外は、あまり多くを語りたくない。この仕事をしていると、たまにこういうこともあるんだ。みんながやっていけるか、それとも止めたいを思えば止めるのか、なんて保証できないよね。トライしてみるまで分からないから。僕はこの作品でトライしたけど、上手くいかなかったんだ。でもキャストと一緒に仕事をするのは楽しかった。彼らも素晴らしい面々だったから。僕はいつもキャストとはとても上手く付き合っているんだ。プリマスでの 5 週間のうち、結局 3 週間半くらいしかいなかったんだけど、長く感じたよ。さて、もっと大きな、もっと良い話題は、と。

これ以外の仕事方面の最近のニュース： 興行主レイモンド・ガベイと一緒にやっているプロジェクトのワークショップをもうすぐ始める。リチャード・ロジャーズの音楽を使ったショーのアイデアがあると、去年の 10 月頃、僕に連絡してきたんだ。リチャード・ロジャーズはロジャーズ・アンド・ハートの片割れで、後にはロジャーズ・アンド・ハマースタインの片割れ、そして彼自身の作品にも曲を書いている。どちらのパートナーとも、作曲家としてとてもたくさんの大ヒット曲を書いた驚くべき作曲家だよ。ここ数ヶ月、彼の曲を研究中で、それをショーにまとめ上げようとしているんだ。まだ非常に初期段階だけど、とてもワクワクしている。たぶんダンス・ショー、歌のないダンスだけのショーになると(今のところ)思うよ。キャストは多めになることを願ってる。たぶん来年か来年以降、ロンドンに入る前にツアーをしようと思う。だから興奮してるよ。これに多くの時間をかけているし、そう、やるのが待ち遠しいよ。

その他のニュース：「危険な関係」はまだ継続中。再び上演できるよう、ずっと追いかけているんだ。果てしなき物語みたいだけれど、僕はあきらめていない。この作品をとて信じているし、再上演したら観客もいてくれることを願っている。何人ものプロデューサーを訪ねて、目下大奮闘中なんだ。今度こそ上手くいくことを祈ってる。

仕事方面はこんなところかな。繰り返すけど、変なビジネスだよ、これって。何ヶ月も何ヶ月も、下手をすると何年も忙殺されるくせに、突然暇になる。で、まるで迷子になったような気がして、何をすべきかよく分からない。今の僕はこんな感じかな。「イマジン・ディス」で経験したことに影響を受けているのかもしれないけれど、取り組めるワークショップがあるから、大丈夫だよ。

他にも、今年の夏は今のところあまりいいことが無いんだ。約 1ヶ月前、僕の愛するおばあちゃんが亡くなった。享年なんと 92 歳。素晴らしい人生を送った祖母だけど、逝ってしまったとて寂しい。大好きだったからね。ところが 2 週間前、今度は僕

のゴッドマザー(名付け親)が亡くなった。1年半、いやたぶん2年前に癌と診断されてから、病気とよく闘ったけれど、最後は負けてしまった。実際僕がタバコを止めたのは、彼女が癌と分かったからなんだ。このことにも、そしてたくさんの素晴らしい思い出をくれたことにも、彼女にありがとうと言いたい。素晴らしい女性だったよ。意地悪だけど面白くて、多才で、とても優しくて、僕のキャリアをいつでもサポートしてくれた、僕の母の親友。彼女も逝ってしまったなんて、とても寂しい。

最後にあともう二つ： まずオランダに住んでる僕の親戚、テリーおじさん、エリーおばさん、キム、こんにちは。おばあちゃんの葬式で数年ぶりに会ったね。ああいうことで良かったのは、ほら、地理的な理由でしばらく会っていなかった親戚に会えたことだよ。みんなウェブサイトを見て僕が何をしているかを追いかけてくれているそうだから、カレンとジェイン、フォローしてくれてどうもありがとう。スーザンとクリスにも、お礼を言うよ。

そして僕の動向にずっと関心を持ってくれているみんな、どうもありがとう。僕がちょっぴり落ち込んで何もしたくない時でも、ウェブサイトを担当してくれているカレンとジェインにも、ありがとう。今年は困難な年だっていうこと、分かってくれるよね。

どうか素晴らしい年末と、新年を迎えられるように。でもその前に、またみんなに話すよ、約束する！

じゃあ、みんな、元気でね。またみんなにステージから再会できたらいいな。

オーケー、さよなら。

アダム x